月刊
えくてびあん
立川と語ろう　立川に生きよう
4
〈EKUTEBIAN-VOL.6. APRIL. 1989-EKUTEBIAN〉
祝・立川駅開設百年
まいあーと
■陶板レリーフ「光と緑の祀り」
by 佐藤国夫●原画
ルイ・フランセン●造形

「停車場」からの一世紀

野原に線路がひかれた、その上を汽車が走った。陸蒸気と呼んでいた人がまだいたのかも知れない。明治二二年四月十一日、甲武鉄道（新宿～立川）間の開通。大事件であった。あれから百年。停車場は「駅」となり、国鉄は「ＪＲ」と変身。百年記念を前にして、懐かしい風景をお目にかけよう。

写真提供●歴史民俗資料館／金子市之丞氏

昭和初期

昭和55年ごろ

日本で初めての「映画列車」が企画され、立川↔東京間を映画とアトラクションを楽しみながら走った

南口では、二中と諏訪の森がよく見えたというが、いまやその影すらない懐しい思い出となってしまった。また南口の開設も昭和5年と遅い出発であった

あかね橋にて

昭和24年ごろ

昭和6年ごろ

列車も、ドイツ製の機関車が初めて甲武鉄道を走った。昭和61年には特別急行列車が、わが駅にも停るようになった

Bタンク機関車・形式10

3020形式機関車

特急「あずさ」号

そして現在

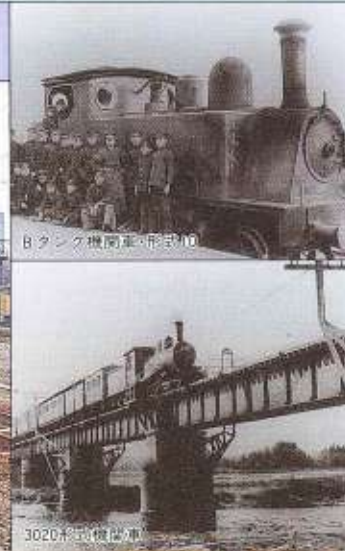
空からのぞいてみると、駅を中心として街が賑ってきた様子がうかがえる。また、当時の航空からの写真撮影は難しく、貴重なものである

大正末期の市街

北口には、「渡り鳥の塔」（住谷作）などのオブジェが置かれ、通る人達の目を楽しませている。また、明治には大きな千本桜が、行きかう人々の心を和ませていた

大正末の駅

昭和7年ごろ

昭和55年ごろ

高松町大通りにて

北口ロータリーに集まった、昭和30年前後のバイク野郎達

高松町大通り、入口交差点にくり出した地元万燈御輿

この人たちがいて駅が働く…

この「クルマ時代」にも、やはり鉄道の役割がおおきいことは立川駅100周年のフィーバーをみてもわかる。この駅で、乗客には見えないところで黙々と活躍している人たちの姿は・・・

信号担当の仲川紘輝さん

驚かれると思いますが、一日2千本ちかい列車が運転されていましてね。はじめに一本一本の列車をわが子のように覚えてチェックすることが大切でね。〝ヘッド〟といって電車と電車の間を言うんだけど、ラッシュの時は2分10秒ぐらいでホームに入ってくるからぼやぼやしてられない。」安全維持の為には機械頼りだけじゃね。基本動作の声出し、指差確認が大切。各線への振り分けが主で、その時々の流れを掴み、スムーズに乗って頂けるように心がけていますよ。

駅長の深井賢一さん

駅の中心人物〟駅長の一日にも、こんな知られざる一面がある。「立川駅長になったばかりでして、まあ、ピカピカの一年生といったところです。デンと座っているわけにはいきません。構内を巡って不備はないか、外回りは……と、あっという間に時が過ぎましてね。皆さんに喜んで頂ける駅にしたくて、あっちの駅がイイと聞けば見にいったりと、好奇心おうせいに走り回っています。立川を知らなきゃと、あれこれ本を見て勉強してますよ」と、41代目駅長。

運転整理の古川俊美さん

そうですね、なんといってもダイヤ（運転計画）どおりに電車を走らせることが私の役で、端から見ればなんてことない様に見えるかもしれませんね。東京の輸送司令からの指示で動きますが突発事故の時には、全権が委ねられてダイヤ正常化に必死で当ります。何分何秒といった間隔で動いている電車を管理して、当り前の時間に当り前に到着、発車させる。この積み重ねが最大のサービスですから。立川も百年ですが、以前新宿でも味わい、百に縁があるようで。

遺失物係の秋山明仁さん

雨の日には、お店が開けちゃうぐらい傘を忘れていかれますね。一日百本ちかい傘や。最近目立つバッグの忘れ物はほとんど取りにきません。変った忘れ物といえば、リス（ペット）や入れ歯ですか。昔は搭婆やタイヤなんかも変ったもののひとつでした。中でも貴重品は困りだねです。中味の額の違いから鉄道警察立ち合いなんて場面も出たりします。忘れ物は駅から立川警察署に届け、飯田橋の遺失物センターに運ばれて行き、半年後にまたJRに舞い戻ってきます。

漢字テスト㊴

空欄に一字挿入を試みよ。

▶春風◯雨

▶鳥◯花香

新住所のお知らせ

本紙編集室は富士見町2丁目に仮工房を持っておりましたが、ここを〝えくてびあん編集工房〟として本格的に編集活動をすることになりました。

●〒190 立川市富士見町2―20―15 パークビューハイツ501

●☎0425・28・0082です。

立川クイズ

甲武鉄道新宿―立川間が開通したのが今から100年前の4月11日。ところがこの時、開通式をせずに営業を開始したそうな。さて、その理由は？

①1月完成予定が大幅に遅れたため営業開始を急いだ。②小金井公園の花見の時期に間に合わせるため急いだ。③沿線の鉄道建設反対の声が強かったので自粛した。

【先月号の答】③

昭和2年9月2日、初の外国機としてソ連機が立川に。

立川・トピックス

斉藤選手が相撲日本一に

「立川人・展」にも登場したアマチュア相撲の斉藤一雄選手（栄町4丁目）が全日本相撲選手権大会で圧倒的な強さを発揮、第37代アマチュア相撲日本一と同時に天皇杯を授与された。この快挙を喜び立川市相撲連盟をはじめ有志が集い（2月18日、立川グランドホテル）盛大な祝賀パーティーがひらかれ健闘を讃えた。

北京に渡す歌のかけ橋

作曲家溝上日出夫さん（幸町6丁目）が3月26日、北京で自作曲の演奏会を開催。女声の歌と男声の朗読でつづる珍しい試みで、朗読はテレビ等でおなじみの俳優、滝田裕介さん。歌うは溝上氏夫人で、ソプラノ歌手として活躍中の桑原英子さん、仲睦まじい〝おしどり演奏会〟である。祝賀迭次演出円満成功！

立川駅長列伝 ⑮ 最終回

中野　明

「立川駅開設百周年」を間近に控えた二月、東日本旅客鉄道㈱の人事発令により第四十一代立川駅長に深井賢一氏が就任。前任の志水駅長から引継ぎを終えた深井新駅長は「立川駅を自宅と会社や学校、あるいはそれぞれのお客様の目的地との通過地点としてだけではなく、かつての駅がそうであったように文化の中心的位置を占めるような駅にしたい」と、将来の抱負を聞かせてくれた。

明治二十二年四月、甲武鉄道として出発した中央線は国有化されたものの、この春、JR東日本という奇しくも開業当時と同じ民鉄として百年目を迎えようとしている。（完）

●写真は駅長室に掲げられている歴代駅長の名札―百年の歴史を静かに見守る。

四十一代 深井賢一
四十代 志水良平
三十九代 山内一夫
三十八代 小林傑
三十七代 窪田龍雄
三十六代 長谷川忠道
三十五代 市川秀雄
三十四代 矢野武雄
三十三代 釜山昇
三十二代 船橋忠利
三十一代 常盤具美
三十代 勝又高良
二十九代 松本翠
二十八代 常世田千代松
二十七代 坪井忠守
二十六代 佐藤泰治
二十五代 岩下藤太郎
二十四代 平本丈男
二十三代 植松豊
二十二代 粟原武男
二十一代 高田丈夫
二十代 池田正
十九代 若宮正安
十八代 松本博
十七代 澁谷軍平
十六代 伊藤新一
十五代 内桶勝次
十四代 圓谷信吉
十三代 富沢平馬
十二代 中里貞次郎
十一代 橋本七三
十代 林鐵次郎
九代 結城明雄
八代 土屋資一
七代 片山栄蔵
六代 田中六郎
五代 河村正彦
四代 恵志常之助
三代 影本虎三郎
二代 久良賀野辰彦
初代 中島福太郎
歴代駅長

表紙は語る

まい・あーと●油彩レリーフ「光と緑の祀り」 by 佐藤園夫●原画 ルイ・フランセン●造形

古い歴史をもつ立川駅。昭和五十七年十月に、近代的な駅として優美な姿を現した。そのオープンを記念し、色鮮やかなレリーフを〝地域のために〟と、多摩中央信用金庫などの協力で実現することになった。「〝光と緑の祀り〟というテーマで制作に取り組んだのが、あの作品陶板（信楽焼）レリーフです。〝平和・欅〟を盛りこんだものを、との要望があってね欅の研究に方々歩き回りました。もちろん、鳩や現代的女性、その他のモチーフについてもですが。

わたしにとって初めてのことで、原画をもとに造形家ルイ・フランセン氏（ドイツ）が、焼物になるようにアレンジしてレリーフを造るんです。どう原画が変っていくのか、不安と興味から何度か信楽まで足を運びました。ヨーロッパのほうは歴史があるんですね、アレンジの素晴しさにびっくりしました。まあ、原画の持っているイメージとは一味違いましたが。」

主に、日本画で風景を描いていますが、非常に斬新なものを求めてやっています。立川の後に、郷里岩手の役場庁舎壁面のレリーフを組み立てまでやりました。立川でいい勉強をしましたよ」と、日展所属、評議委員もされている佐藤園夫さん。

真如苑だより

暖冬で季節の狂いが心配されましたが、桜はころび、菜の花が咲き乱れるのは、やはり日本の春の風景です。天然の歩調はおもったよりも確かなものです。

春爛漫の真如苑へ、今月もお出掛けください。

■日時　4月22日(土)　午後2時～4時

■御本尊、真如宝物館をはじめとして映画など盛りだくさんの用意がしてございます。

■立川市民（成人）に限らせて頂きます。

■お申し込みは「えくてびあん・コンパニオン」（本誌を手渡してくれた人）へ。

工房から

●いまでも時どき、以前の工房所在地（柴崎町）を訪れてくださる方がおられるようです。こんど、今まで仮事務所にしておりました現在地を本工房として落着くことになりました。これまで同様、いろいろな情報をお寄せください。また、御気軽に遊びにきてください。●本誌はNTTが主催する全国タウン誌フェスティバルに今回（第4回）も参加。486誌の中の一つとして全国のタウン誌と交流を深める絶好の機会でした。●立川駅開設百年は、どっしりとした「重み」を感じます。さすがあ「鉄の道」じゃありませんか。そして、来年は早いもので、この街も市制五十年。年々、厚みをましてくるわが立川市なのです。●えくてびあん 吹くともなしに 竹の秋

（編集）石塚敦美　小川知子　神山清子　陽川瑾　田中恵子　辺上麻里　半沢正弘　原田佳子

（写真）天野武男　板橋一明　吉田義治　スタジオ269

漢字テスト・答え

春風化雨（しゅんぷうかう）　穏やかな春風と、植物の成長にほどよい雨。転じて立派な教育のこと。

鳥語花香（ちょうごかこう）　鳥はさえずり、花は馥郁と香る。うららかな春の美しくのどかな風物詩。

月刊えくてびあん　第57号
平成元年四月一日発行
発行所　えくてびあん編集工房
東京都立川市富士見町2-20-15 パークビューハイツ501 〒190
電話　〇四二五(28)〇〇八二
編集人　立井啓介
発行人　沖野嘉男
印刷所　㈱大廣社

SALON D'ARTISTE DANS L'ECOUTEZ-BIEN

あーとさろん

えくてびあん

作曲家は魔術師。わき上る想いを音符に変えて、五線譜の中に生まれかわらせる。誰も聴いたことのない〝新しい曲〟として。音楽の世界が一つずつ広がっていく。魔術師の心にイメージがわく度に。

溝上日出夫さん(幸町)

▲中３の時、ピアノに惹かれ一夏でバイエルからベートーヴェンまで一気に進んでしまった。作品は歌曲が多かったが最近は器楽曲にも力を。オルガン曲「雪中供養音[illegible]」はドイツで高く評価。

中原健二さん([illegible])

◀音符が自在に読めるようになったのは中学時代。作曲に夢中になっていた。最近は室内楽・声楽の委嘱作品が多い。

福士則夫さん(幸町)

▶幼い頃からの音楽生活。離れた時期もあったが、やはりこの道に。打楽器の曲が多い。昭和47年、芸術祭優秀賞受賞。

中島洋一さん(砂川町)

▲自分の〝感性〟を表現するのに科学的知識が不可欠という新しい分野、電子音楽。あらゆる音が素材として使え、自分のイメージ通りに加工できるのに惹かれている。